群馬県立太田フレックス高等学校【定時制課程】学校評価一覧表①　（平成２９年度版）（様式１）

注　評価について　A：十分に達成できた　B：達成できた　C：もう少しで達成できた　D：達成できなかった

羅針盤				第１回点検・評価			第２回点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目	方策	自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策
Ⅰ　特色ある学校づくりに努めていますか。	1　特色ある教育活動（授業等）を行っていますか。	①　完全な単位制の履修形態に満足している生徒・保護者が90%以上である。	個々の生徒の適性や進路に合わせた履修指導を行う。	A	A	生徒の92%、保護者の97%が肯定の回答をしている。履修に不満を覚える生徒には適宜履修意義や将来展望の指導をする。	A	A	肯定的な回答をした生徒が第１回より２%増加した。各生徒の進路目標をより具体化させ、それを適切な履修に結びつける。
		②　学年、学級がない中で、生徒の出席率を80%以上にする。	学籍管理システムの出席率データを活用し、各生徒の状況を把握し支援する。	B		４月から８月までの出席率は、Ⅰ部83%、Ⅱ部84%、Ⅲ部89%である。欠席状況をゼミ担任が確認するとともに、教務部が出席状況の悪い生徒一覧を作成し、状況把握を的確に行った上で、ゼミ活動や保護者との連携を通じて、継続的な指導を図る。	B		４月から12月までの出席率は、Ⅰ部84%、Ⅱ部81%、Ⅲ部85%であり、全体で昨年より１%増加している。出席状況の確認を徹底し指導に反映する。生徒の校内での諸活動の様子や校外のアルバイト等の状況も把握し指導に活かす。
		③　ゼミ（総合的な学習）の活動に満足している生徒が80%以上である。	ゼミを通して、生徒自身が自己と向き合い主体的に学習する態度を育成する。	B	A	生徒の90%、保護者の92%が肯定の回答をしている。フレックス発表会を目標にして、活動計画を立案・実践し、より主体的な活動となるようにする。	A	A	肯定的な回答をした生徒と保護者が第１回よりともに２%増加した。教員が設定したテーマ・活動内容に対して、生徒自身も企画を考えたり、活動のより活発化に貢献できるようにする。
		④　学校設定科目の内容に満足している生徒・保護者が80%以上である。	選択幅の広い柔軟な時間割が作成できるように科目設定を検討する。	A	A	生徒の92%、保護者の96%が肯定の回答をしている。さらに授業内容を充実させ、生徒の現状に応じた授業展開をする。	A	A	回答は肯定的であるが、学校設定科目を履修している生徒は54%とやや少ない。より多くの生徒が履修するように、科目説明を十分に行うとともにより生徒のニーズにあった授業を行う。
		⑤　自分の学校が好きだと感じている生徒が80%以上である。	本校の特性を生かした教育活動を展開する。	B	B	生徒の83%が好きだと回答し、保護者の97%が入学させて良かったと回答している。個々の生徒の状況に応じたきめ細やかな指導を通じて、太田フレックス生としての充実感の定着を図る。	B	B	「フレックススクール基本構想」を再確認するとともに、現在掲げている教育目標実現のための具体的かつ生徒の実態に即した教育活動内容を全職員で検討し実践する。
Ⅱ　生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2　生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	⑥　少人数制の利点を生かした授業内容に満足している生徒・保護者が90%以上である。	個々の生徒を観察・理解し、生徒の実態にあわせた授業づくりに全教職員が取り組む。特に、７月と12月に授業アンケートを実施して、授業改善に生かす。	A	A	生徒の95%、保護者の96%が肯定の回答をしている。授業アンケートで生徒から指摘された内容については、該当科目だけでなく、すべての科目にも当てはめて検証し、少人数を生かした授業研究にさらに取り組む。	A	A	少人数制においては自己表現の機会が増えるが、それに抵抗を感じる生徒もなかにはいる。そのような生徒も含めて、授業が個々の生徒を大切にしながら力を伸ばす安全な空間であるという状態を今後も維持する。
	3　生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑦　学力が向上したと感じている生徒が80%以上である。	基礎基本の定着と主体的で対話的な学びを通して思考力・判断力・表現力を養う授業に全教職員が取り組む。	B	B	生徒の83%、保護者の81%が肯定の回答をし、昨年度より数字が高くなった。生徒理解に基づく、深い学びに繋がる協働学習や授業展開について、各教員が研修と実践及び情報交換・意見交換を繰り返し行う。	B	B	研修係による研修と個人による自己研鑽を継続する。授業展開の工夫だけでなく、協働学習の適切な評価を行うとともに、考査問題でもさらに思考力・判断力・表現力を問う設問の量と質を高める。
Ⅲ　生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4　組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑧　全教職員が、学校運営方針等を踏まえた自己目標を設定し、本校の教育活動に取り組んでいる。	学校運営方針等と学校評価一覧表を連結させ、これらに基づいて生徒の変容を念頭に自己申告書を作成し、実践する。	A		すべての教職員が、学校運営方針や重点目標を踏まえた自己目標を設定し実践している。今後は、ＰＤＣＡサイクルを踏まえてカリキュラムマネジメントの考え方も意識した実践を行う。	A		『自己申告』による個人の振り返りと各分掌・ゼミ等による業務の評価及び課題発見を行うことで、次年度の教育活動がより充実したものになるようにする。
		⑨　いじめの発生防止に努め、いじめの解消率が100%である。	定期的なアンケートにより状況を把握し、また集会等により、いじめ防止の啓蒙やいじめ発生の際は迅速な解消を図る。	B	B	８月までにいじめと捉えられる事案は数件見られたが、解消に向けて迅速な対応が図られている。集会等を通じて、いじめ防止の呼び掛けをする。教職員も生徒の多様性を受容し、生徒に対して差別的な言動をとることなく、生徒の範となる。	B	B	いじめの解消が発生から３ヶ月経過後という設定になったことも受け、今まで以上に長期的な観察・支援及び指導を実践する。今後も特にＳＮＳ関係の問題に関して、日々の指導に加え講演実施や通信発行により生徒への呼びかけを強化する。
		⑩　挨拶の励行や学校生活の中でのマナーや礼儀をできている生徒が80%以上である。	挨拶の習慣を身に付けさせ、TPOをわきまえた身だしなみを全教職員が積極的に指導する。	A	A	生徒の95%、保護者の90%が肯定の回答をしている。授業・ゼミや集会を通じて継続的な指導を行う。マナー等の問題は、その場ですぐに指導をする。教職員も率先してあいさつをする。	A	A	適宜指導をすることに加え、安定した学校生活や生徒間・生徒と教員間の温かい人間関係をさらに向上させることが、マナーや礼儀の向上につながるようにする。
		⑪　交通マナー・交通ルールを遵守している生徒が100%である。	各ゼミごとの標語作成や「ひやり・ハット」アンケートを通じて定期的な自己啓発を図る。	C	C	生徒の96%、保護者の95%が肯定の回答をしている。本項目の最終的な目標は100%である。定期的な『交通委員会便り』の発行に加え、様々な視点から継続的な注意喚起・啓発に取り組む。	C	C	盗難被害防止のための自転車の施錠指導も含め、自分の身は自分で守る、そのためにも、交通ルール・交通マナーを守ることの必要性を繰り返し指導する。交通標語作成も継続する。
		⑫　教育相談が充実していると感じている生徒が80%以上である。	管理職、教育相談係、スクールカウンセラー等と連携し、個々の生徒へ複数の教職員で支援を行う。	B	B	生徒の86%、保護者の83%が肯定の回答をしている。スクールカウンセラー来校の周知と相談しやすい環境を作りを行う。保護者の相談活用の在り方についても検討をする。	B	B	スクールカウンセラーによる職員研修や支援会議を通じて、教職員とカウンセラーの連携を強めるとともに、教職員自身の教育相談技能をさらに高める。
		⑬　学校行事チャレンジウォークに生徒の70%以上が参加し、90%以上が完歩している。	行事の意義理解と健康管理という生徒への事前指導を充実させるとともに、当日は生徒の的確な観察と支援を行う。			10月20日に実施予定のため、今回は評価は行わない。下見等を通じて安全確保に留意しながら、きめ細かな実施要項を作成した。保護者にも行事の意義を理解してもらっている。	B		参加率は昨年より増加して89%であり、完歩率は昨年より減少して95%であった。事故や友人関係にひきずられたリタイアが原因であった。問題点をより明確にした事前指導を行う。
		⑭　学校行事フレックス発表会に満足している生徒が80%以上である。	日々のゼミ活動や部活動に力を入れ、充実した発表ができるようにする。			12月15・16日に実施予定のため、今回は評価は行わない。昨年度に引き続き、ゼミ発表の場としての位置づけをより明確にし、10月中旬には実施要項を完成させるとともに、各ゼミで計画的かつ積極的な準備を行う。	B	B	肯定的な回答をした生徒が昨年より４%増加した。成果発表をする中で、計画力、実行力、創造力、情報発信力、柔軟性、主体性、規律性や協調性等をさらに高められるように、計画段階から、発表会の意義を認識しながら取り組めるようにする。
	5　生徒は健康で規則正しい学校生活を送っていますか。	⑮　健康について自己管理ができている生徒が70%以上である。	保健だよりによる広報活動を促進し、自主的に健康づくりができるようにする。	B	B	生徒の81%、保護者の72%が肯定の回答をしている。定期的な『保健だより』の発行による呼び掛けに加え、個々の生徒の健康状態を日々把握し、適切な助言や指導を行う。	B	B	受診勧告後に未受診のケースがあり問題である。その理由確認も含めて家庭連絡をさらに強化する。また、予防や生活リズムの確立についても繰り返し生徒に呼びかける。
Ⅳ　生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	6　計画的な指導をしていますか。	⑯　卒業生徒で進路決定者が75%以上である。	入学時から卒業後の進路設計を意識できるように全教職員が指導する。			評価は行わないが、現在、就職・進学に向けて最後の努力をしている生徒には全職員が多角的に指導を行う。全生徒に対しては、ゼミや集会等で適宜情報提供や意欲喚起を行う。	B		１月５日現在、進路決定率66%（進学87%、就職80%）、進路希望未決定者21%である。卒業後の進路決定に向けて、個々の生徒の状況を的確に把握しながら粘り強く指導を行う。
		⑰　進路目標を持ち、その実現に向けて努力している生徒が75%以上である。	進路関係の諸行事を定着、発展させ、進路だよりを定期的に発行する。	C	C	生徒の78%、保護者の73%が肯定の回答をしている。自信と自覚を持って、就職・進学に臨めるように、基礎学力の定着を図るとともに年次ごとの系統的な進路指導をさらに実践する。	B	B	日常的な進路指導に加え、上級学校訪問や企業訪問に参加する生徒が増加するような働きかけを強化する。また、家庭で親子で進路に関する話を持つ機会となる情報発信をする。
Ⅴ　開かれた学校づくりに努めていますか。	7　家庭に積極的に情報発信して、連携が取れていますか。	⑱　生徒の育成について、学校と保護者の連携がとれていると感じている保護者が80%以上である。	ゼミ担任から保護者への連絡を密に行い、行事等における保護者との連携の機会を増進させる。	B	B	保護者の84%が肯定の回答をしている。ＰＴＡ役員を中心とした活動は充実しているが、個々の保護者への連携はさらに綿密にとる必要がある。保護者への各種情報提供の機会も増やす。	B	B	保護者と教員の良い連携が、生徒を伸ばしていくことにつながるといいう認識を保護者と教員ともに持てるようにする。保護者が学校行事に参加しやすい環境・雰囲気作りを行う。